

野鳥

三瓶山の野生動物の中でも最も種類が多く簡単に観察できるのは鳥類だ。彼らを最も簡単に見つけられるのは、木々に葉がつき始める前の早春か、葉が落ちる晩秋と冬である。4月から6月までの繁殖期は、鳴き声で鳥を識別するのに最適な時期だ。

三瓶山は多くの渡り鳥の生息地であるため、1年の中でも様々な時期に様々な鳥が訪れる。春や初夏にやってきて、ヒナを育て、冬になるとより暖かい場所へと飛び立つ種がいる。これには夜になると長く鋭い口笛の様な鳴き声を響かせるトラツグミや、上品なさえずりで山を賑わすキビタキやオオルリなどがある。少数派だが、ホトトギスとツツドリもまた暖かい季節に三瓶山を棲家とする。

秋や冬には、寒い地域から別の渡り鳥がやって来る。シロハラ、ツグミ、ミヤマホオシロ、ジョウビタキ、ベニマシコなどである。雄のベニマシコはくちばしまでもが鮮やかなピンクで魅力的な色をしている。

一年を通して棲む鳥たちもいる。エナガ、ヤマガラ、シジュウカラ、メジロ、カケス、声の高いヒヨドリなどである。オオアカゲラやコゲラが獲物を探したり巣を作ったりする際に木の幹をつつく音が聞こえてくることがある。

いくつかの種は三瓶山の特定の生息地に生息している。アマツバメは頂上地域を好み、ゴジュウカラはブナ林で見ることができる。川や池はカワセミの棲家だ。山のふもと近くの草原では、日本の国鳥であるキジが頭を上下に動かしながら草原を歩いているのが見られるかもしれない。